

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、毎年見直しを行っている。特に、実学を強く意識し、農業生産につながる科目を重視している。	3年生以降の演習および卒業論文作成を意識し、1年次配当の共通演習や東京農業大学入門などの科目において、情報収集力やプレゼンテーション力を高めることを目的とした教育を実施した。	シラバス作成、成績評価について大学の基準を順守するとともに、評価について教員間で共通認識を持つよう努めている。	卒業論文は、学生との密度の高いコミュニケーションが必要であり、重視している。また客観的評価として、各研究室の代表による卒論発表会を開催して優れた卒業論文に学科長賞を授与し、多くの学生の意欲向上を図っている。	教育課程及びその内容、方法の適切性は、学科長・主事他数名の教員からなる農学科カリキュラム検討委員会を設置、検討を重ねている。定期的に学科会議などに諮問、協議して、常に改善・向上を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・農学概論、農業実習（一）（二）（三）および生物学実験などを配し、農学の起源を踏まえて、実習と実験を重視したカリキュラム体系になっている。	<b>【長所】</b> ・卒業論文を早い段階で意識させ、問題解決能力、計画力、思考力やプレゼンテーション力を身に付けさせられる。	<b>【長所】</b> ・特定の学問分野に偏らず、社会人や大学院生として主体的、協働的な活動ができる能力を重視した評価となっている。	<b>【長所】</b> ・卒業論文において中間発表会を実施することで、学習成果の把握を可能としている。	<b>【長所】</b> ・もともと伝統のある農学科の特徴である実験、実習を重視した教育方針が継承されている。
	<b>【特色】</b> ・学科内の6研究室がそれぞれの特徴を活かした実習や実験の授業を行い、3年次での専門分野を学ぶ研究室選択に役立っている。	<b>【特色】</b> ・共通演習は少人数クラスとし、個人別に発表する機会を複数回設けている。 ・東京農業大学入門では収穫祭文化学術展の見学レポートを課している。	<b>【特色】</b> ・特に卒業論文については、学科全教員が一堂に会して発表会を開催し、様々な分野の意見を反映して評価している。	<b>【特色】</b> ・卒業論文は3年次のできるだけ早い段階から意識を高められるように指導し、就活や卒業後の課題推進力を養えられるような取り組みとなっている。	<b>【特色】</b> ・実習は伊勢原農場とも密な連携をとり、充実した内容となっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・教員の業務量増加で、本取り組みに充てる時間が不足している。
	<b>【課題】</b> ・オンデマンド教材、Teams や Forms など遠隔授業で培った手法を活かした授業の更なる改善。	<b>【課題】</b> ・特になし。	<b>【課題】</b> ・特になし。	<b>【課題】</b> ・特になし。	<b>【課題】</b> ・オンデマンド教材、Teams や Forms など遠隔授業で培った手法を活かした授業の更なる改善。
根拠資料名	資料基1（令和7年度時間割表）	資料基2（卒業論文シラバス）	資料基3（農学科3ポリシー）	資料基4（令和7年度 農学科 優秀卒業論文発表会）	資料基1（令和7年度時間割）

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	2018年4月からの学部改組が実施されたことを踏まえ、学科の独自性を確保しながら、農学部全体を盛り上げるべく、出張講義等に赴き学生募集に取り組んだ。前年度、指定校選抜の指定校を大幅に増やしたことを継続し、今年度も前年度と同数（34名）の志願者を集めた。また、個々の選抜制度の目的に沿って、口述試験（面接）の評価基準を更新した。数年前から共通テスト利用でも2科目型の導入、3・4科目型でも理科の科目を増やすなど、これまで以上に多くの生徒が志願できるよう整えた環境を維持している。結果的に、年内入試において6割以上の入学者を確保し、かつ一般選抜への志願者数に影響はなかった。	農学部入試広報委員会と連携を取りながら、改善・向上に向けて取り組んでいる。入試イベントでは講義や研究室の模擬体験、教員と懇談する機会を増やすなど、受験生にできる限り寄り添い、農学科の特徴を伝えることに努めた。また、特に出張講義には力を入れて、高校生からの反応を見極め、入学者選抜における事前課題、口述試験（面接）などの改善に向けた参考とした。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・幅広い入試制度で志願者数を確保できる。	<b>【長所】</b> ・受験生ひとり一人に時間を掛けて対応することで、農学科教員の学生と一緒に学び、研究に取り組む姿勢、雰囲気を与えている。
	<b>【特色】</b> ・積極的に若手教員を動員して、長期的に一貫性を保ち公正な入学者の選抜を実施できる体制を整備している。 ・出張講義など高校等からの要請に可能な限り対応し、かつ若手教員の積極的な派遣により、最新の研究内容を紹介して、農学科の魅力の広報に尽力している。	<b>【特色】</b> ・農学部全体の取り組みの中で、農学科としての特徴を明確にした。その中で、生産農学という軸は維持しつつ、消費者のニーズを意識する生産から流通までの学びが理解できる取り組みに努めている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・年内入試での入学者の6割確保の維持と一般選抜での志願者の更なる確保。	<b>【問題点】</b> ・入学後の教育内容については、学生の要望に十分応えているか確認できていない。
	<b>【課題】</b> ・入試イベント等への参加を促す情報発信に更なる創意工夫が必要。高校生、高校教諭および保護者など対象毎に魅力を知ってもらえるように、それらが求めている情報の発信が不十分。大学全体の課題である入試制度の改善について、意見集約し議論を深めるところまではできていない。	<b>【課題】</b> ・在学生に対して教育内容の適切性を調査することが必要。
根拠資料名	資料基5（令和7年度出張講義等一覧）	資料基5（令和7年度出張講義等一覧）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	農学科では以下の通りとしている。 1. 持続可能な次世代型農業の創造に貢献できる教員 2. 農学に関する知識を基盤に、作物生産の発展に資する教育・研究能力を持つ教員 3. 農学に関する知識を基盤に、農産物の生産から流通までを支える技術の発展に資する教育・研究能力を持つ教員	学科の教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。新規採用の人事を進めるにあたって、編制方針を意識した。	昇格および専任化については適切に対応した。今年度は1名の嘱託准教授の専任化を申請した。	学科内の研究室横断型の卒業論文の推進などを通じて、教員の質の向上に努めた。さらに、これらが学科全体で今後取り組めるプロジェクト等のシーズとなるように、学科としての卒業論文発表会を実施した。さらに、若手教員の留学を積極的に実施している。	学科内の主任会において、教員組織の適切性について点検を行った。今後の教員採用に向けて、随時、農学科の未来を見据えた議論をしている。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・農学科のディプロマ・ポリシーに沿った内容になっている。	<b>【長所】</b> ・実習教育を意識した教員配置になっている。	<b>【長所】</b> ・新規採用については、当該研究室の今後の方向性を議論のうえ、研究者としてはもちろん、教育者として、多くの人材を育てることのできる人材を幅広く募っている。	<b>【長所】</b> ・研究室間のコミュニケーションを意識し、必要に応じて各研究室の教員の強みを活かして、研究室横断的に卒業論文の指導に取り組んでいる。さらに、留学により国際的な感覚を養っている。	<b>【長所】</b> ・学科の教授で構成している主任会で議論、方向性を見出し、これを学科会議でさらに議論して、改善、向上に取り組んでいる。
	<b>【特色】</b> ・研究室はもとより、分野を意識した内容になっている。	<b>【特色】</b> ・実学主義を踏まえた研究活動を教育に活かせる教員を配置している。	<b>【特色】</b> ・深い専門性に加え、本学の教育を理解し、人材育成にも貢献できる教員配置となっている。	<b>【特色】</b> ・各研究室と緊密な連携を図ることで、教育や研究の成果の社会実装を推進、教員の資質向上を図っている。	<b>【特色】</b> ・学科全体で議論することで、組織全体の改善、向上についての共通認識を持つことができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・留学等による教員不在期間の対応。	<b>【問題点】</b> ・特になし
	<b>【課題】</b> ・特になし。	<b>【課題】</b> ・特になし。	<b>【課題】</b> ・応募条件に見合った応募者の確保。	<b>【課題】</b> ・留学する教員の代替教員の確保など、研究室の負担軽減と教育の質の低下の回避。	<b>【課題】</b> ・議論に充てる時間の確保。
根拠資料名		資料基3（3つのポリシー）		資料基4（令和7年度 農学科 優秀卒業論文発表会）	資料基6（学部・学科・課程紹介）

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 動物科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 講じている <input checked="" type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	2024 年度より新カリキュラムが開始となり今年度は2年目となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各研究室の紹介および卒論研究紹介であるオープンラボを開催し、学部生への研究の動機付けを行っている</li> <li>学科セミナー室を共通講義室または大学院生同士の交流自習室としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級、卒業判定会議の結果を学科教員全員に開示し、学科会議にて確認している。</li> <li>講義・実習は出来る限り複数教員が担当し、相互に成績確認しながら最終評価を下している。</li> </ul>	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、毎年学科会議において変更点の有無を含め確認している。	教育課程及びその内容、方法の適切性について大学で実施している学生による授業評価アンケートの結果を考慮し、講義内容の改善や向上を試みている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 動物科学科として必要な科目を充実させる	【長所】 ・学科一堂に会した場での討論	【長所】 ・学科教員による成績不良学生の把握 ・成績評価の共通理解	【長所】 ・学習成果の共通理解	【長所】 ・定期的な点検・評価 ・授業担当者を複数とすることで教員相互の点検が可能となる。
	【特色】 ・農学部として必要な実習を学生に提供する。就職先に応じた新科目の開講。	【特色】 ・オープンスペースの活用	【特色】 ・複数教員による学生評価	【特色】 特になし	【特色】 ・教職では農業・理科の資格、食品衛生管理者任用資格を得られるカリキュラムとしている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 ・	【課題】	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	カリキュラム・ポリシーとシラバス	オープンラボアンケート	合同教授会、進級等の資料 学科会議記録	学科会議議事録	FD 委員会記録

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部としての学生像を踏まえ、学科の独自性を確保しながら、学生募集等に取り組んだ。また求める学生像をポリシーに基づきより明確にした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出張講義を積極的に行っている。高校生ならびの高校教員からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどを改善した。</li> <li>選抜入試制度毎の学生のGPA、研究室入室後の卒業論文への取り組みなどの評価、検証を行うべく準備している。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・アドミッション・ポリシーに基づいた入学試験科目の設定	<b>【長所】</b> ・学部、学科としての制度や体制の見直し
	<b>【特色】</b> 特になし	<b>【特色】</b> 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・指定校入試など年内入試の入学者数の確保	<b>【問題点】</b> 特になし
	<b>【課題】</b> ・指定校入試など受験者数が低下傾向であるが、今後の受験者の推移を注視する。	<b>【課題】</b> 特になし
根拠資料名	入学センター入試選考委員会記録	入学センター入試選考委員会記録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	・大学・学部の方針に則り、動物に係る生殖・遺伝・生理といった生命科学関連領域、および栄養・衛生・動物行動といった良質で安全な食料を生産する生産科学領域で活躍できる人材を養成し得る、強い意欲と能力を持った教員をバランスよく配置している。	・教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置している。	・教員の募集、採用は完全公募制とし大学ホームページ、JRECK-IN ならびに関連学会 HP で公開している。 ・昇格基準を満たした教員に対しては、研究室を通じて昇格申請を提出する様に指導している。	・任期制教員に対しては、毎年教育・研究目標の達成状況を面談にて確認している。教員は、大学が実施している自己点検と授業評価で質改善を行っている。	・学科教授会において教員組織の適切性(特に職階と年齢構成)について確認している。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・ディプロマ・ポリシーに基づいている	<b>【長所】</b> ・学際的領域をカバー出来る学科教員体制	<b>【長所】</b> ・特になし	<b>【長所】</b> 特になし	<b>【長所】</b> 特になし
	<b>【特色】</b> 特になし	<b>【特色】</b> ・研究室、分野を考慮した編成	<b>【特色】</b> ・特になし	<b>【特色】</b> ・特になし	<b>【特色】</b> 特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> ・分野によって教員の職階と年齢のバランスが取れていない場合がある。	<b>【問題点】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・教育や研究成果を客観的に測る指標を用いて適切な助言を行う態勢が必要
	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> 特になし
根拠資料名	大学 HP の教員・職員公募案内、JREC-IN Portal	東京農業大学農学部教員紹介、農学部 GUIDE	大学 HP の教員・職員公募案内、JREC-IN Portal、学科会議事録	任期制教員面談記録	学科会議記録

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 生物資源開発学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 講じている <input checked="" type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている、教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	・前年度の課題「講義内容の整理点検、習得すべき知識の具体化とそれに関する教員間での情報共有」を踏まえ、学科教員で互いのシラバスの内容の点検と見直しを行い、授業の改善を図った。	・シラバス等で科目ごとに評価基準を明記すると同時に、初回講義において学生に説明している。シラバスの作成及び成績評価は大学の基準を順守して行った。 ・成績および研究内容に関する優秀者を学位記授与式などで表彰する仕組みの構築に努めている。	・学位を取得し卒業する学生に対し、4年間の学びで得られたことを中心とした卒業時アンケートを実施している。その回答結果からディプロマ・ポリシーに明示した能力の習得状況を把握し、カリキュラムの評価につなげている。	・学位を取得し卒業する学生に対し、4年間の学びで得られたことを中心とした卒業時アンケートを実施している。この資料をもとに学生自身が実感としている学びと教育課程及びその内容、方法の適切性について点検・評価を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・1年次から、持続可能な農学の基盤となる「生物多様性」と、「資源利用」への展開を意識した教育を実施している。	【長所】 ・年々浸透の度合いがまっている ICT を活用した教育への転換が学科カリキュラム全体で体系的に行われている。	【長所】 ・成績評価においては多面的な評価を行うことで学生は基本的に納得して評価を受け入れている。	【長所】 ・学科の教育課程を経た学生の知識・経験・技術の習得状況を直接的に把握し改善に繋げられる。	【長所】 ・学科の教育課程を経た学生の実感を課程終了直後の学生から聴取する教育課程の評価はその適切性の判断に直結する。
	【特色】 ・1年次から、座学のみならず、実習・演習科目を前・後学期に配置している。	【特色】 ・オムニバス形式科目においても教員間で一貫した ICT の活用で受講学生の理解度の確認が行えている。	【特色】 ・学生の研究内容や研究室活動の実績を踏まえて優秀な学生を選定し、学位記授与式において特別賞として授与する。	【特色】 ・アンケート項目の設定によって課題となる点を深掘りし、具体的な改善の取り組みにつなげることが可能である。	【特色】 ・学科独自の取り組みであり、学科が主体的に教育課程の編成をフレキシブルにリアルタイムに検証することができる
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 ・同時平行的に存在する旧 ICT システムとの使い分けで教員の一貫した対応が求められる。	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名		・シラバスチェック修正箇所指摘エクセルファイル	・学科会議議事録		

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本学科は特定の農用生物のみならず、野生の動植物、昆虫、薬用植物とそれらの遺伝資源に至る幅広い生物に興味関心を持つ学生を求めており、入学センターと連携して入試制度を整備し、学生募集等に取り組んでいる。学科内に設置された入試委員会を中心に学生募集および入学者選抜の実施方法（採点基準、合否基準、合否人数）及び試験の実施体制について検討し、学科で議論を重ね、公正かつポリシーに基づいた入学者選抜に努めている。	開設年度より毎年、学科独自の新入生アンケートを実施し、新入生の志望動機を分析することでアドミッション・ポリシーに基づいた学生の受け入れができていないかを検証している。また、入学後のミスマッチが起きないように、学科教員間で情報共有に努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学生受け入れに関するシステムが機能することで安定的な受験者数の確保につながっている。 ・本学科の学生受け入れに関してこれまでのところ問題は生じていない。	<b>【長所】</b> ・アンケートを活用することで入学者の学業に対する意欲とアドミッション・ポリシーのミスマッチの防止につながっている。
	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし
	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名	・2026年度入試結果 生物資源開発学科	2025年度新入生アンケート結果

## 3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・大学・学部の方針ならびに学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教員組織の編成の考え方及び特色に従った方針を学科として明示している。	・学科新設時に教育研究上の目的を十分理解し、その具現化に向けた強い意欲を持つ教員配置が行われ、維持されている。	・2023年度以降、学科教員の全てが専任教員で構成されている。	・社会へ貢献する活動として地域から依頼される講演会に積極的に教員を派遣している。 ・学内外の研究費への積極的な応募による研究の推進、研究室や学部横断型の学内外プロジェクトの推進などを通じて、教員の資質の向上に努めている。	・教育・研究以外の業務が特定教員に偏らないよう、学科長が労務管理を行い、学科会議等を通じ、組織内での役割分担の点検・評価を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・動物・昆虫・植物、実験系・フィールド系といった学科の教育理念を反映した教員構成を示せている。	【長所】 ・動物・昆虫・植物、実験系・フィールド系といった学科の教育理念を反映した教員構成であること。	【長所】 ・長期的に安定的な学科運営を実現するとともに若手教員のキャリア形成（留学、大学院指導教員）を支援する体制が整っている。	【長所】 ・多彩な分野の教員が所属しているので、社会の様々な場で活躍することができる。 ・調査・研究に対する意欲が高い教員が多いこと。	【長所】 ・学科開設時から各教員の業務履歴（学科・学部・全学委員等）を記録し、適材の配置、業務分担を図っている。
	【特色】 なし	【特色】 ・農学のみならず理学、薬学、人間環境学と多様な分野をカバーする教員構成となっていること。	【特色】	【特色】 ・一般に興味を持たれるテーマを持った教員が多いため講演会活動が多い。	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 ・学生の学問的興味に偏りがあり、多くの学生が動物を学び研究することを希望するのだが、その受け皿となる分野（研究室）が1つしかなく一部の学生しかこれを学べないこと	【問題点】 ・次年度に1名の教員欠員が生じる。	【問題点】 ・なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 ・動物系を学びたくて入学した学生の受け皿となる組織の再編	【課題】 ・2026年度に新たな若手専任教員を採用し、新たな学科人事計画（留学、昇任等）を作成する。	【課題】 ・なし	【課題】 なし
根拠資料名	なし	・学科の所属研究室希望調査資料 ・新入生アンケート結果		・講演会パンフレット ・新聞掲載情報	資源学科・教員の学内業務履歴

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 デザイン農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	座学と実習・演習との関連について説明しながら授業を展開している。実習・演習では内容ごとに詳細を記した資料を配付している。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記している。大学の基準に従った成績評価および単位認定を行った。	学生の履修・単位取得の状況および進級・卒業判定の情報を学科教員で共有し、必要に応じて学生指導を行っている。	学科内での点検・検討を行い、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 配付資料を活用した復習ができ、知識の定着が期待できる。	【長所】 なし	【長所】 クラス担任および研究室教員による細やかな学生指導が可能である。	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・履修のてびき	・シラバス〔農業実習(一)(二)〕〔デザイン農学基礎実験実習・演習〕〔デザイン農学専攻別実験実習・演習〕	・履修のてびき ・学生生活ハンドブック〔成績、進級、卒業〕	・履修のてびき	・学科会議議事録

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アドミッションポリシーに従った学生募集及び公正な入学者選抜を実施した。	学生の履修状況と興味のある領域についての把握を行い、3年次以降のより専門的な教育と研究指導につなげられるように努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 学科の特色でもある理系のみならず文系の学生を獲得するために、文科系の入試科目を設定している。 オープンキャンパスなどで受験生に対して学科の説明を行っている。	<b>【長所】</b> なし
	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし
	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学案内</li> <li>・学科会議議事録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議議事録</li> </ul>

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	学部の完成年度以降、研究科を含めた適切な教員組織編成に関して、検討を随時行っている。	学科を新設する際に予定された教員組織編成となっている。	退職する教員の後任人事を適切に実施している。 研究科の安定に向け、昇任を適切に行っている。	学科会議等で意見交換・検討を行っている。	定期的に点検・評価を実施している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 なし	【長所】 各研究室3名の教員を配置し、円滑で細やかな教育研究活動を行うことができる。	【長所】 学科および研究室教員の専門性、年齢構成を考慮した人事を行っている。	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 学科の特色である幅広い「農」の領域をカバーする教員編成となっている。	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・学科会議議事録	・大学案内 ・学科会議議事録	・学科会議議事録	・学科会議議事録	・学科会議議事録

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 農学科

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学士力の向上に向けた教員と学生との協働		
実行サイクル	<u>2</u> 年サイクル（令和7年～令和8年）	<u>        </u> 年サイクル（令和 <u>        </u> 年～ <u>        </u> 年）	<u>        </u> 年サイクル（令和 <u>        </u> 年～ <u>        </u> 年）
実施 スケジュール	4月：新入生オリエンテーションの実施（1年生） 5月、7月：クラス別懇談会の実施（1年生） 8月：世界学生サミットへの参加（全学年） 11月：収穫祭文化学術展への参加（1年生、3・4年生） 通年：農業実習（一）（二）での学科独自の学内実習（1年生） 通年：演習・実験・卒論の研究室での取り組み（3・4年生）		
目標達成を測定する指標	原級率、就職率および進学率		
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	予定したイベントのうち、「世界学生サミットへの参加」を除いて、他は全て実施した。特に1年生に対しては、オリエンテーション、農業実習（一）（二）のサツマイモ栽培、各研究室で担当した学内実習などを通じて、学生と交流する機会を多く持つことができた。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・協働することで学生と教員の心理的距離が近くなり、適切な指導につながる。 <b>【特色】</b> ・実習や実験など教員と学生との共同作業で苦楽を共有する。	<b>【長所】</b> ・ <b>【特色】</b> ・	<b>【長所】</b> ・ <b>【特色】</b> ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし。 <b>【課題】</b> ・原級率のさらなる抑制。	<b>【問題点】</b> ・ <b>【課題】</b> ・	<b>【問題点】</b> ・ <b>【課題】</b> ・
根拠資料名			

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究分野を横断した卒業論文、分野別の演習および実験による次世代型農業に寄与する研究の推進	農場との連携強化による実学的教育の実施	
実行サイクル	___2___年サイクル（令和7年～令和8年）	___2___年サイクル（令和7年～令和8年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）
実施スケジュール	通年：大学院農学専攻と連携しこれを軸とした研究発表会等の開催	通年：農場を活用した研究活動	
目標達成を測定する指標	分野を横断した発展的な卒業論文数および大学院進学率	農場を活用した成果（論文および学会発表数）	
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	学科の全研究室が一堂に会して卒業論文発表会を実施した。分野を超えた質疑応答が交わされ、有意義な議論ができた。また、大学院農学専攻の論文発表会には学部3、4生の参加を可とし、実際に20名を超える多数の学部生が参加した。	作物学研究室、園芸学研究室、植物病理学研究室において、農場の圃場や施設を使った卒業論文課題を実施した。	
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・教員、学生ともに所属研究室以外の研究内容を把握できる。	【長所】 ・生産圃場での実用的な技術開発、研究が可能。	【長所】 ・
	【特色】 ・所属研究室以外の教員、大学院生、学部生との交流が活発となる。	【特色】 ・圃場規模が大きいため、技術実証的な実験ができる。	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・キャンパスと農場間の移動に負担が大きい。	【問題点】 ・
	【課題】 ・次世代型農業に寄与する研究への意識付け。	【課題】 ・研究内容の高度化と論文および学会発表の推進。	【課題】 ・
根拠資料名	資料包1（令和7年度 農学科 優秀卒業論文発表会） 資料包2（令和7年度 大学院農学専攻論文発表会プログラム）		

## 3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	東京農業大学の農学科らしい入試、カリキュラムおよび就職支援による志願者確保と学生の満足度の向上	少子化に対応した将来の学科像の提示	
実行サイクル	___2___年サイクル（令和7年～令和8年）	___2___年サイクル（令和7年～令和8年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	通年：出張講義、個人・団体見学、各種入試イベント、指定高校推薦型選抜の指定校の見直し 通年：カリキュラム改善の検討 通年：就職セミナーの実施、公務員試験対策講座の実施	通年：学科会議	
目標達成を測定する指標	出張講義数 個人・団体見学対応数 受験者数 就職率 新入生アンケート	検討日数 草案作成	
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	各種の総合型選抜では、志願者の違いに応じた評価重点項目を設けて選抜した。指定校を前年度、大幅に増したことを継続し、年内の入学決定率は前年と同水準の6割強を維持した。また、教員を高校の模擬講義等へ積極的に派遣して志願者確保に努めた。	2028年度の改組に向けた農学部改組ワーキンググループの委員として、農学科から若手2名の教員を選出した。この委員を中心に将来の学科像について検討を進めている。	
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・農学科らしさを備えつつ多様な資質のある入学者が確保できる。 <b>【特色】</b> ・入試イベントでは、各研究室の教員が待機し、参加者からの質問に対して詳細に回答して農学科の学生気質や雰囲気伝えている。	<b>【長所】</b> ・委員を40歳以下に限定したため、将来を見通した議論がなされている。 <b>【特色】</b> ・植物に特化した学科として特徴を明確化する方向で検討中。	<b>【長所】</b> ・ <b>【特色】</b> ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・入試イベントでの教員の負担軽減と内容充実の両立。 <b>【課題】</b> ・学生満足度の把握とカリキュラム改善の具体化。	<b>【問題点】</b> ・他学科との意見のすり合わせが不十分。 <b>【課題】</b> ・学科内でのコンセンサスの醸成。	<b>【問題点】</b> ・ <b>【課題】</b> ・
根拠資料名	資料包3（令和7年度出張講義等一覧）		

学部・研究科名 農学部

学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎

学科名・専攻名 動物科学科

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	進級・卒業率の向上	卒業生による特別講義	優秀論文発表会の実施
実行サイクル	4 年サイクル（令和4年～令和7年）	4 年サイクル（令和4年～令和7年）	4 年サイクル（令和4年～令和7年）
実施 スケジュール	出席状況の確認と指導 毎年6月・7月		
目標達成を測 定する指標	成績不良者の指導（4月 9月 2月）	毎年 数回実施	毎年1月に実施
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	成績不良の学生に対して指導を行った。	研究室ごと、ゼミの時間に卒業生による特別講義を行った。	オープンラボを行い、各研究室の優秀卒業論文研究を発表した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・成績不良者に自覚してもらおう場となっており、教員にとっても対応が必要な学生の把握に役立っている。 <b>【特色】</b> ・面談することで本人の置かれている状況確認が出来る。	<b>【長所】</b> ・OBの話なので参加した学生が興味を持って聴講していた。 <b>【特色】</b> ・就職活動の動機付けになっている。	<b>【長所】</b> ・オープンラボでは学科における研究、研究室の特色などを発表、展示して、学科の内容をよりよく理解できる機会となった。 <b>【特色】</b> ・学科の全学年の希望者が参加できる機会になっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・同じ学生が毎年成績不良者として上がることが多い <b>【課題】</b> ・複数回成績不良者となった学生への指導	<b>【問題点】</b> ・特になし <b>【課題】</b> ・様々な分野の卒業生に話をしてもらうことが出来ると良い	<b>【問題点】</b> ・特になし <b>【課題】</b> ・特になし
根拠資料名	個別指導実施記録	特別講義の学生レポート	オープンラボアンケート

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究会や学会の参加	外部資金の獲得	
実行サイクル	____4____年サイクル（令和4年～令和7年）	____4____年サイクル（令和4年～令和7年）	____年サイクル（令和____年～____年）
実施 スケジュール	年間を通じて	機会に応じて	
目標達成を測 定する指標	大学院生に対しては、対象科目を設置し、学部生については特に指 標は定めていない	大学院生・学部生を含め、明確な目標と資金を用いて質の高い教育研究 に取り組む	
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学部生を引率し学会に参加 発表させた	企業や団体との共同研究などを含め外部資金の獲得を行い、共同研究の内 容の一部を大学院生・学部生の研究内容として行った。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・博士前期・後期課程への進学に生かせる。	【長所】 ・学生に社会貢献活動の研究の一端を感じさせることができる。	【長所】 ・
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・
根拠資料名	修士論文申請書	共同研究契約書（各研究室） 卒業論文（各研究室）	

## 3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標			
実行サイクル	_____年サイクル（令和 ____年～ ____年）	_____年サイクル（令和 ____年～ ____年）	_____年サイクル（令和 ____年～ ____年）
実施 スケジュール			
目標達成を測 定する指標			
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明			
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

# 2025（令和7）年度 包括的な点検・評価報告書

様式2

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎  
 学科名・専攻名 生物資源開発学科

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	ディプロマ・ポリシーを実現するための完成年度に向けた教育課程の構築	学生の教育環境の保証（大学生生活を含めた学生の充実した教育環境作り）	
実行サイクル	<u>4</u> 年サイクル（令和4年～令和7年）	<u>1</u> 年サイクル（令和7年）	<u>      </u> 年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通じて：学科会議（毎月2回）、学科教授会（毎月1回）</li> <li>カリキュラムに関する検討</li> <li>12～3月：シラバス検討委員による点検、改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通じて：学科会議および専攻会議において教員間で学生の教育および大学生生活の現状を情報共有する。</li> <li>学科教授会において人事、大型機器・設備の更新、将来構想等について検討する。</li> <li>4月に新入生学外オリエンテーションを実施し学生間の交流を支援。</li> <li>【前年度からの課題】履修者が極めて多い科目について、授業運営の改善を図る。</li> </ul>	
目標達成を測定する 指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議の実施状況</li> <li>科目の担当者、内容、評価法の検討</li> <li>シラバスの作成と点検・見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科会議、学科教授会の議事録</li> <li>行事の参加者</li> <li>科目履修者数</li> </ul>	
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	今年度は最終年度に当たりこれまでの総括する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>学科会議の実施は目標達成したが、学科教授会は未実施な月があった。</li> <li>教育課程の向上を目的に既存科目の見直し科目の統廃合と科目の新設を行うことができた。</li> <li>本取り組みで設置された学科独自のシラバス検討委員会は十分に機能し、毎年度末に学科全科目のシラバスについて記載内容を点検し、その結果を学科で共有して指摘事項について改善を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科会議および専攻会議において修学支援が必要な学生、履修状況が芳しくない学生の様子について情報共有するとともに必要な対応について話し合った。</li> <li>学科教授会で大型機器の導入を検討し、予算立てを行った。定期的に将来構想について議論した。</li> <li>山梨県小菅村での学年縦断・分野横断型のプロジェクト（2022年開始）を継続し、農学部農業実習インターンの単位としても位置付けて運用している。</li> <li>入学時期の学外オリエンテーションでその後の学生間だけでなく教員ともスムーズなコミュニケーションが実現</li> <li>履修者が極めて多い科目について、履修制限を行う措置をとり、授業運営の改善を図った。</li> </ul>	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第3者によるシラバス点検は学科全体の教育課程の詳細を全教員が把握する機会にもなっている。</li> <li>会議における教育課程に関する定期的な議論は学科教員の教育に対する意識の向上につながる。</li> </ul> <b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>新1年生を対象にキャリア形成に関するセミナーを実施した。</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育・研究環境の現状を定期的にチェックし、即時対応可能</li> <li>科独自の教育の場を学生に提供</li> <li>望ましい授業環境の提供</li> </ul> <b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラス担任だけでなく学科教員トータルでのケア体制</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次年度へ の課題	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ディプロマ・ポリシーに則った教育課程の編成であるかどうかの詳細な部分を確認する仕組みが構築できていない</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業年次生へのアンケートにその能力の習得状況を確認できる質問を組み込み定期的に検証を行う。</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>成績が優れない学生の修学支援を継続的に実施する必要がある</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科会議・学科教授会議事録</li> <li>令和4年度～令和7年度学科シラバス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科会議、学科教授会の議事録</li> <li>学外オリエンテーションのスケジュール表</li> <li>科目履修者数</li> </ul>	

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	多様な地域、環境における生物多様性の解明、保全、生物資源の持続的な利活用に関する総合的研究の基盤構築	研究組織、機器設備の戦略的な構築	
実行サイクル	___4___年サイクル（令和4年～令和7年）	___1___年サイクル（令和6年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）
実施スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて学科会議、学科教授会の開催</li> <li>・年2回程度の研究発表会等の開催</li> <li>・学内研究プロジェクト、外部資金プロジェクトの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回の学科会議の開催による教育研究、FDに関する情報共有</li> <li>・月1回の学科教授会の開催による人事、大型機器・設備更新、将来構想等について検討</li> </ul>	
目標達成を測定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科教員および学生が国内外で展開する調査、研究テーマの概要</li> <li>・学内プロジェクトに関わる業績や外部資金申請数、採択数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科教授会の議事録</li> </ul>	
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<p>今年度は最終年度に当たりこれまでを総括する。</p> <p>山梨県小菅村を調査地とした、分野横断型のプロジェクト（2022年開始）を継続している。農業インターンシップの単位として配置するとともに、複数の研究室の3・4年生、院生が研究の場として活用して研究調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科教授会で大型機器の導入、設備の更新に関する議論を行った。</li> <li>・多くの教員が学生と共に国内外のフィールドへ調査に出てその成果をまとめた。</li> <li>・多くの教員が外部資金に申請し採択されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度からの計画に従って高性能蛍光顕微鏡を研究室に導入した</li> <li>・次年度予算編成では、大型機器、設備更新の特別予算について議論し、温室の機能向上を目的とした予算を立てた。</li> <li>・次年度公募する人事について学科教授会で話し合った。</li> </ul>	
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科で展開される様々な分野の研究が本目標の基盤となる</li> <li>・研究発表会を開催することで分野間融合による新たな研究展開が生まれる</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科教員は国内外に多様な調査フィールドを持っている</li> </ul>	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な予算執行ができています</li> </ul>	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とくになし</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とくになし</li> </ul>	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議、学科教授会の議事録</li> <li>・研究発表会の要旨集</li> <li>・外部資金獲得状況を示した資料</li> <li>・投稿論文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2026 特別予算計画会議資料</li> <li>・2026 機器更新等費一覧</li> </ul>	

## 3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保		
実行サイクル	____4____年サイクル（令和4年～令和7年）	____年サイクル（令和 年～ 年）	____年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種入学試験における入試検討委員会の開催</li> <li>・通年：個人・団体見学対応、高校出張講義</li> <li>・キャンパスツアー、オープンキャンパス、収穫祭の進学相談時の対応</li> </ul>		
目標達成を測定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験者数</li> <li>・各種イベントの来場者数</li> <li>・新入生アンケートによる志望動機の動向調査</li> </ul>		
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<p>今年度は最終年度に当たりこれまでの総括する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年内入試に際して学科入試委員会を開催し、客観的かつ公平な評価を目指し口頭試験における評価方法を検討した。</li> <li>・個人・団体見学ならびに高校出張講義を数多く実施した。</li> <li>・複数の大学行事で進学相談に対応した。</li> <li>・継続的に新入生アンケートを実施し、有益な情報が蓄積している。</li> </ul>		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公平な入試評価方法が常にアップデートされている。</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試イベントでは学科の特色を活かした展示物で学生の興味を引いている。</li> </ul>	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生アンケート結果から志望動機の動向調査が実施できていない</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの新入生アンケートの分析を行う必要がある。</li> </ul>	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科の受験者数を示した資料</li> <li>・各種イベントの来場者数を示した資料</li> <li>・新入生アンケート結果</li> </ul>		

学部・研究科名 農学部

学部長・研究科委員長名 多田 耕太郎

学科名・専攻名 デザイン農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	本学科のディプロマ・ポリシーの確立固めを目指し、昨年度までの成果を分析し、新カリキュラム設定を行う。		
実行サイクル	<u>1</u> 年サイクル（令和7年）	<u>      </u> 年サイクル（令和 年～ 年）	<u>      </u> 年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて：学科会議、カリキュラム検討会など</li> <li>・12～1月：シラバス作成</li> </ul>		
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議の実施</li> <li>・カリキュラムおよびシラバスの作成と点検・見直し</li> </ul>		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科会議を定期的および必要に応じて臨時で実施している。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	・学科会議議事録		

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	充実した研究活動の活性化を目指し、研究室の体制を整える。 (研究室所属3,4年生の年間を通じた交流機会を増やし、研究活動および引継ぎなどの円滑化を図る)		
実行サイクル	1 年サイクル (令和7年)	_____年サイクル (令和 年～ 年)	_____年サイクル (令和 年～ 年)
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通じて：研究室における研究活動</li> <li>中期：卒論中間発表</li> <li>後期：卒論発表および卒論提出</li> </ul>		
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究室活動への出席状況</li> <li>卒業論文の成果</li> </ul>		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	研究室での活動が復活し、研究室所属学生全員の出席がみられ、収穫祭・文化学術展へ全研究室が出展参加した。 卒論研究の活性化により、卒論内容の充実が図られ、卒論発表会が対面で実施された。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・研究室所属学生の交流機会が増え、人的繋がりが強まるとともに、研究が進展する。	<b>【長所】</b> ・	<b>【長所】</b> ・
	<b>【特色】</b> ・3,4年生が共存することで、上級生から下級生への引継ぎが効率よく、研究が滞りなく進む。	<b>【特色】</b> ・	<b>【特色】</b> ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・	<b>【問題点】</b> ・
	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> ・	<b>【課題】</b> ・
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文</li> <li>収穫祭パンフレット</li> </ul>		

## 3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保		
実行サイクル	1 年サイクル（令和7年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通年：出張講義および高校訪問</li> <li>・通年：個人・団体見学対応</li> <li>・キャンパスツアー，オープンキャンパス，収穫祭の進学相談時の対応</li> </ul>		
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張講義数</li> <li>・見学者数</li> <li>・進学相談者数</li> <li>・学生数</li> </ul>		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<p>依頼のあった出張講義や見学依頼に積極的に対応している。(令和4年度：出張講義 22 校、高校訪問 9 校、見学対応 7 件)</p> <p>進学相談に学科教員で対応している。(令和4年度：合格者向け説明会を独自に対面でも実施・3件)</p>		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験希望者からの情報収集（農大およびデザイン農学科への関心度、要望など）が可能である。</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議議事録</li> </ul>		